

第2回 西部緑地公園再整備構想検討委員会 議事録

日時： 令和4年12月27日（火） 13時30分～15時00分

場所： 行政庁舎11階1102会議室

出席者： 会議資料「出席者名簿」のとおり

1. 開 会

2. 議 事

(1) 第2回西部緑地公園再整備構想検討委員会資料の説明

(事務局から会議資料に基づいて説明)

(2) 意見交換

【鏑委員長】

ただ今、事務局の方より、前回委員会の意見の集約、県民アンケートの結果、調査データ、公園の要素についての事例、コンセプト案の提示がありました。これらが今日議論する部分であり、しっかりと議論していきたいと思えます。コンセプトは、公園のかたちを考える時の良し悪しを決める物差しになりますので、ここは言葉ですけれども、しっかりと皆様と共有できればと思っています。

ここから議論に入ります。まずは前半としまして、課題やニーズを踏まえた整備イメージ、9ページから14ページまでの部分についてご意見をいただきます。それから後半については、15ページで示されましたコンセプトの方向性についてご意見いただければと思います。それでは前半の部分について、ご意見等々あれば、質問含めておっしゃっていただければと思います。

【伊藤委員】

今日から仲間に入れていただきました伊藤です。どうぞ宜しくお願いします。私は、石川県で社会人一年生をはじめまして、今ちょっと出稼ぎで離れておりますけれども、育てていただいた石川県に恩返しがしたいと考えておりましたところ、先日、馳知事から、馳浩スペシャルアドバイザーというものを拝命致しました。色々なことを発言するよう命を受けましたので、今日は色々議論に参加していきたいと思えます。

その前に確認させていただきたいことが二つあります。一つは、私、今日金沢に来まして、お昼に友人に会いましたら、北國新聞のウェブ版に新しい配置図というのが載っていたそうなんですけれども、皆様ご存知ですかね。知らないでしょうか。ご存じないですかね。私は見たんです、それを。今、紙はないんですけど、多分23、24日ぐらいに出てたよって金沢の友人が先ほど言っていたので確認しました。新しくこんな風に配置されたらいいねというメディアさん独自の構想というものが載っていたのだと思うのですが、それで宜しかったでしょうか。

【光永企画振興部長】

県として何かお出ししているわけではないので、あくまでも西部緑地公園にどのような機能を持たせるかというところが決まらないと、どのように配置していくかということが決まらなないと思えます。何を盛り込むかというところが、先生方でオーソライズ出来ていないのに、県の方からお示しすることはまずあり得ないですし、それは県としてお示した、或いは委員会の資料として何かお示したというものではございません。

【伊藤委員】

そうだと思っていたので安心しました。その発表されているものは、メディアさん独自のものということで、それに沿うことなく、私たちは自由に議論できるということで有難かったです。

その図を見たのですが、今、部長さんがおっしゃったように配置というのは大事なポイントですけれども、パッと見た感じで言いますと、批判するわけではないんですが、何か新しいものが出来るぞという感じには見えませんでしたので、ちょっと勿体ないなと思いました。行ってみたいなとか、新しいものが出来るんだろうなという期待感があるなというような雰囲気には見えなかったもので、少し残念な感じがしました。メディアの皆さんとは連携してやっていくと良いと思いますので、その辺りも上手くやっていけたら良いのかなと思った次第です。良かったです。

二つ目は、回答は結構なのですが、アンケートについて、第1回目に私は参加しておりませんので、議事録を拝見しましたところ、光永部長の議事録にもあったんですけど、石川県に来ていただいた人に「こんな素敵な公園があるんだ、だったら足をのばしてみよう」というようなことも視野に入れて、県外の方も含めて広くアンケートをとることが載っていたので、私もこれに大賛成です。最初から県民の方たちの希望だけという風に考えるのではなくて、これからコンセプトを考えていく時に、減っていく石川県の人口、ここを対象にして、どういう公園にしようかと考え、更なる賑わいを出して利用者を増やすというのはとてもハードルが高いと思います。だから、結果としてどうなるかは別として、最初から県民だけを対象にするのではなく、色々な人の意見を聞き、県外・海外の人達も視野に入れたコンセプト作りを一旦してみるのも良いのではないかと思います。ありがとうございます。

【鏑委員長】

県外からの方の目的地にもなるような魅力をとということですよね。

【伊藤委員】

はい、というのも一つの考え方かなと思います。

【鏑委員長】

ありがとうございました。

【光永企画振興部長】

今回お示しさせていただいた調査結果については、これは県民の方々に対するものですが、県外の方々に対しても、委託事業者に別途やっていただいております、今取り纏めているところなんですけれども、今確認しましたら、概ね出ている意見としては、飲食店があつたらいいんじゃないとか、大体同じような意見が出ているというところでしたので、取り纏めて委員の方々にもどのようなかたちでお示しするのは、またご相談させていただければと思います。

【町田委員】

ご説明ありがとうございました。前回の主なご意見を見ながら、それから一番最後に添付されている今の施設

の配置図などを見比べながら、真ん中のあたりを見つつ最後のページを見ると、前回の委員会で申しあげましたように、この規模の公園をつくる時は、大体大委員会を開いて基本構想・基本計画が策定され、公園としてのまとまり、ランドスケープとしてのまとまりがあり、そういう所がおさえられている気がするんですけども、前回も基本構想・基本計画が無かったと聞きました。この1頁の公園のあり方っていうところ、日常的に訪れる公園という言葉で飾られています、何と言いますか、極端ですけども、今は公園としての機能をなしていないのだと思います。公園としてのかたちがきちっと出来上がっていて、一つの景色の中に産業展示館だとか、スポーツ施設だとか、そういうものが収まっているということが必要だと思います。ランドスケープとして優れているとか、公園として優れているっていうことが大前提にあるっていうことを意識して貰いたいと思いました。言葉で言うと、9ページの緑地等のところに「景色が良く、心地よい緑地空間をつくって欲しい」というアンケートの言葉だけ語られていますが、結局ここに出てきている言葉というのは、現在の公園に良い景色があるわけではないという認識からきているのだと思います。すごく良い景色だなんて感じられるような、そういう公園になって欲しいという気持ちがあると思いますので、意識的にそういう表現をして欲しいと思います。

【鏑委員長】

前回も、マスタープランがこれまでなかったということで、それも含めて、公園としてということの大前提にかたちが詰まっていけば良いと思います。景色の話になりますと、これは緑地というか、これは県として県外の方へのアピールという話もありましたけれども、石川県のかたちというものを何らか分かるような特徴というか、そういったものをどのように出していくかは次の段階になると思いますけれども、例えば、この雨が多いところでどんな風景が美しいのかなど、そういったことを議論の中に詰めていければ良いかなと思います。

【桂田委員】

桂田でございます。まずは石川県の皆様に、前回、県民向けアンケートをお願いしますということで、伊藤委員のご意志と違ったことを色々と言ってしまったにもかかわらず、県外の方にも意見をお聞きいただけたということで、そこは石川県の皆様に御礼申し上げます。そして、精緻なアンケート結果が出たなと思っていますし、30代以下の方のコメントが半数以上取れたということについては、凄く有意義かなと感じています。

私も町田委員がおっしゃる通り、確かにスポーツ施設とか産業展示館があり、私はスポーツのところをいつも担当分野であります、やはり石川県らしい公園というものがベースにあった上で、スポーツとか、展示館とか、コンサート機能については民間施設注視というところがあり、別の論点があるかもしれませんが、公園としてのベースの考えた方については、この委員会でコンセプトを整えていただけたらと思います。

もし、これからお調べいただけたらというお願いが2つありまして、伊藤委員のおっしゃるとおり、新しいものを是非と思っていますけれども、ただ私自身の勉強不足もあって、もし可能でしたら事例の中に、国内の先進的な大型公園の事例を入れていると思いますが、石川県は雨や雪が多い地域であると感じましたので、同じ気候環境にあるような大きい公園の賑わいを生み出している事例、今岩手の事例などいくつか入っていますが、今回の事例はどちらかと言うと全国幅広く拾っている感じがしたので、ここは事務局の皆様の方に、同じような条件下にあるような先進事例の公園がありました、事例をお示しいただきましたら嬉しいなと思います。

もう一点が、公園に来られている方、これからアンケートは難しいと思いますが、車で来られる方が大半ということ、イベントだけとか日常の利用以外で、ついでにどこかに寄ったり、前後で何か別の行動をしているのではないかなと思っています、ここは事務局の皆様の主観でも構いませんし、公園に前後行き来する際に、利用

者はどのようなところに立ち寄っているんだろうとか、どんなところと対の行動をしているんだろうというところがもし分かると、今後の公園の機能を検討する時に、その施設と何かアクセスを組んだら良いのではないかとか、その機能と同じものは入れなくていいよねとか、少し示唆が出るような気がしていますので、公園に来られる方の前後にまで思いを馳せて行動を調べていただき、知見を蓄えていただけると有難いと思います。

最後に、30代以下が半数ということは改めて凄いなと思っていますので、その方々のもし宜しければ、どういことを望んでいるかのもう少し細かなニーズが分かるクロス集計分析があると助かります。以上でございます。

【鏑委員長】

事務局いかがですか。

【光永企画振興部長】

公園の様々な事例については委託事業者の方に調べて貰っていますので、今回は様々なテーマごとに、先進的なというか、参考になりそうな事例を幅広くお示しさせていただきましたが、石川県と似ているような気候のところ、或いは公園の規模もあると思いますけれども、そこも踏まえた上で、また今後お示しできるよう準備してまいりたいと思います。

それから、公園の前後にどのようなところに立ち寄っているかということについては、一旦調査自体は実施済みですので、どのようなかたちで実施するかは、事務局の方で工夫させていただきたいと思います。

最後に、30代以下の方々のご意見は色々いただいておりますので、自由意見も書いていただいておりますので、クロス集計と言いますか、30代以下のこれからの石川県を担っていかれるような方々をどのようにまとめていくかという部分も検討させていただければと思います。

【桂田委員】

ありがとうございます。それが整ったら、伊藤委員がおっしゃる新しいアイデアがいっぱい出せる気がしています。

【鏑委員長】

ありがとうございます。はい、青木委員。

【青木委員】

今、色々な指摘がある中で、このコンセプトの方向性ということを考えさせていただいた時に、公園をどう捉えるかということで、どこに力点を置けば良いのかということが変わってくるのではないかという認識を持ちました。今この資料を見させていただいても、憩いの空間としての公園の役割、それから楽しさとかファンを享受したいという役割、それから賑わいをどうにかつukっていききたいというコンセプト、それから健康をどう維持増進していくのかというようなコンセプト、今お話しのあった県民以外の方々にどのように発信していくのか、それを全部盛り込むとあまり焦点が定まらないような、何でも盛り込んだけれども、何したいんですかっていうような事に陥りかねないというような公園の定義のところ悩んだといひますか、混乱をしました。

そういう事を受けて今色々な調査をされるということで、この公園としては、例えば憩いの空間としての公園

ということを第一に目指しながら、先ほど言われる色々な要素を盛り込んでいきたいと思いますのか、中心として捉えるものをしっかりと議論していかないと、これも出来るこれも出来る、当然配置の問題も出てくるでしょうけれども、あまり焦点も絞れないような公園にすると勿体ないと、今の説明を聞きながら感じた次第です。

【鏑委員長】

ありがとうございます。

【光永企画振興部長】

コンセプトのどこに重点を置くかは、非常に重要なご指摘だなと思います。前回の意見でもいただいており、今日も意見の中でいただきましたが、まず大前提として、公園なんだということを大事にしようという意見を沢山いただいておりますので、コンサートができるとかそういう事ではなくて、まずは公園だということを一番大事にしたいと思っています。

ただその中で、色々な方々に、委員の皆様方もそうですし、県民の方々、県外の方々に伺った時に、こんな機能も、こんな機能もというご意見をいただいております。西部緑地公園の敷地自体は、都市公園としてはかなり広い敷地になっていますが、その中で盛り込めるもの、色々なニーズの方がいらっしゃいますので、なるべく幅広いニーズに対応しつつ、今ご指摘いただきましたように、ぼやけてしまわないよう非常に難しい部分であると思いますが、色々な方々にとって魅力的な公園となるように、必要なものはなるべく盛り込んだ上で、石川らしさも大事にしつつ、新しい公園の像というものを示していけるよう、先生方のご意見をいただきながら、取り纏めていけたらと思っています。

【鏑委員長】

ありがとうございます。公園は建物と違い、機能が明確なものではなくて、存在意義がとても大事で、ある程度の自然環境というものは基本的に持っていて、そこから出るものを享受できる空間といことでないとダメなんです。一緒になって整理されるものではなくて、長い期間をかけて充実させている機能もありますし、最初から有している機能もありますし、そういったものを順位付けして、どこ始めようかということも、ここで意見として集約できればいいかなと思っています。はい、伊藤委員。

【伊藤委員】

コンセプトのところですが、私一周遅れていて、ついていけないかもしれませんが、もし間に合うのであればと思っている次第です。1点目はコンセプト。今皆さんから出ている30代、もっと若い人達がこれから活用して下さるものとして残していく、大切なものだという認識を持っています。もし間に合うのであれば、もっと大きなワクワクする夢を一旦描いてみたらどうだろうかと思います。事情とか色々あるのかもしれませんが、今のこのかたちでいくと、老朽化したから建て替える必要があるよねと、そしたら折角だから配置を変えようねと、これだと二学期に入ったから席替えしようねというそんな感じがしています。もし間に合うのであれば、一旦、今の時点で大きな夢を描いて、そこからバックキャストでやっていく。当然大きな夢の通りにならなくて、現実を見ながら削っていくことになると思うんですけども、配置は最終的にどういうかたちになっても良いと思うので、そういうやり方で順を追っていった方が良いと思います。

例えば、先ほどもお話ししたように、観光客にもう一泊して貰えるような施設になったらいいかなとか、或い

はテーマパーク。私、三ヶ月ほど前に兵庫県淡路島に行ってきたんですけれども、兵庫県立淡路島公園という県立公園がテーマパークになっていまして、テーマパークを作ろうという提案ではないんです。例えばです。30万人の年間入場者数が約7倍の230万人になったという数値が出ていたりします。面白い企画だと思いました。

それから、馳知事がおっしゃったように北信越のスポーツトレーニング拠点にしようじゃないかということもありました。スポーツのトレーニング拠点って、アスリートだけが来るのではなくて、アスリートが来ているから色々な同じ競技の子供達が集まる。そこで出た知見が地域の人達に撒かれていくというようなトレーニングセンターという拠点があります。それから、例えば、壊すとかそういうのではなく、産業展示館という名前で本当に良いのか、今4号館を残すということなので一つ産業展示館はありますが、産業展示館を建て替えるというのではなく、我々が作り出した新しいコンセプトに基づいた新しい建物が建ちますよ、そこはイベントとか産業展示に使えますよと、少し言い方を変えるだけですけれども、若い人達が何か新しいものが出来たぞと、期待できるぞというふうに思ってもらえるようなコンセプトの立て方が出来たら良いと思った次第です。2点目はアクセスについて、これは素人で全く分からないんですけれども、これから車で来ることだけを考えるより、例えばスポーツの拠点となると、車で行くとスポーツを観ながらお酒が飲めないじゃないですか。やはり車でなくても来られるような環境をつくって欲しいと思います。例えば、園内にバス停をつくっておいて、後から無人バスとか、そのうち実現しますよね、そういうのが入って来られるようなことを予めやっておくという観点です。

それから3つ目がダイバーシティの視点ですけれども、なるべく早い段階で色々な人、障害がある人とか、子育て中の人とか、高齢者の人などから意見を聞いていく。これは設計の段階だと思いますが、早めに聞いていくことは、とても大事な事だと思っています。簡単な事で、特にお金がかからないような事でも、こうしておくことでとても良かったというようなことがあります。

先日お邪魔した大学の体育館では、床の色と壁の色とドアの色を全部変えている。それだけで視覚障害の人にとっては、非常に便利で、空間を認知し易くなったりするとか、簡単なことで出来たりします。これは、やはり我々の意見を聞いて県立公園が出来たんだよねと、色々聞いてくれたよねと、こんな風になったよねと言うことは、とても嬉しいことだと思っています。だから、ファンになってくれるし、話題も広げてくれると思いますので、早い段階で、そうやって色々な人の意見も聞くことは大事な事だと思っています。

【光永企画振興部長】

コンセプトについては、今回案としてお示しさせていただきましたが、今日もご意見を沢山いただくと考えていますし、あくまでも沢山のご意見を出していただいた上で、来年春に骨子案を取りまとめたいと思っていますので、どんどんご意見を出していただいた上で、どんなコンセプトにしていくのかを決めていきたいと思っています。

それからアクセスの部分ですが、やはり車でなくても来園できるようにすることは非常に大事な事だと思っています。今もバス路線はありますが、あまり本数がなかったりすることもありますし、公園自体が変わっていくとバスが寄ってくれるようになる可能性もあると思います。或いは車だけではなく、シャトルバスを出していただくなどソフト対策もしっかり行い、車でなくても公園に集まってくれるような仕組みをしっかりと盛り込んでいきたいと思っています。

それから、色々な方々のご意見を聞くということも非常に大事だと思っていますので、どの段階で聞くかというのはまたご相談させていただければと思いますけれども、整備してしまってから、アツとならないよう前々からご意見を聞いて対応出来るようにしてまいりたいと思います。ありがとうございました。

【鏝委員長】

スポーツ施設、それから産業展示館についても、親会のコンセプトが及ぶよう、全体として、公園としてまとまっていければいいなと思います。削っても良いところは、まだかなりあると思いますので、そのように進めていきたいと思います。アクセスについて、高山先生、ご意見があると思います。宜しく願います。

【高山委員】

伊藤委員が、非常に的確にご指摘いただいたので、私がこの後に言わなくても良いのではないかと思たんですけども、前回いくつか発言させていただいたことを、この中に、後のコンセプト等にも入れてありますので良いと思っています。

特に、歩車分離の話、リングロード、外周道路みたいなものを入れる計画にすることにしましたし、それから何より金沢駅からどのようにアクセスするかということ。これが非常に難しく、今だったら、直接公園の中に入る路線は便数が少ないと言っていますけれど、近くを通る安原線だと、かなりの本数があるので全てが安原直通ではなく、そのうち何本かは寄ってもらう。西部緑地公園の中に入れるようにして、寄ってもらうという工夫があっても良いと思っています。

それより何よりも、今計画して、おそらく基本コンセプトが決まって、大体、数年後から工事に取り掛かり、十年以内くらいには出来上がると思いますが、それで終わりじゃないはず。言ってみれば、今の西部緑地公園も段階的につくってきて、拡張しながら段階的につくってきた経緯があります。そういう意味からすると、今はだいぶ広いですから、あれ以上拡張するような計画はないにしても、例えば30年後、50年後にどういう公園が望ましいのか、時代も変わりますし、先ほどのお話じゃないですけど、バスだってその頃には自動運転になっているはずですから。そうすると、30年後、50年後の未来を読むというか、夢かもしれませんが、先ほどあった、それを見越した上での計画が必要だと思います。それがあまり書かれていないのが、少し残念だという思いがあります。

金沢市内に神田の交通公園というものがありますが、あれは私が小学の時にはまだ出来なくて、自転車の乗り方の安全講習なんていうのを僕は受けてないんですけど、今はあるようなんですけれど、手狭だとか古くなっているんで、出来ればこの西部緑地公園の中にそういった機能を、両方で出来ても十分ですし、もう少しリニューアルしたような機能を持たせて貰えると非常に良いかなと思っています。

さらに言うと、敷地が広いので、ランニングコースを作るなら自転車でもまわれるようなサイクリングロードとか、そういうものがあるのも良いと思います。これはどうやって入れるかという問題とか、きちっとルートを分けないといけないという問題とかあるので、今後の検討課題だと思いますけれども、あれば面白いかなと。自転車好きな人も結構多いです、非常に良いかなと思います。私自身、ちょっと自転車に関わっているものから。

それから、今実態を見てみると冬雪が降って、ほとんど利用者が少ないですね。先ほどの年間の利用者数を、令和2年度と令和4年度のもの比較して見ても、真冬の間、1月、2月ってほとんど入園者が少ないですね。これは何とかしないと。折角作るのに、先ほどから色々提案がありますが、何か冬でもイベントが出来るような工夫が大事だと思います。冬の期間、1月、2月、これは結構雪が降っていますけれども、ここでならイベントが開けるといえることになれば良いのではないかと思います。以上です。

【鐔委員長】

今事例の中にステーションもありましたけれども、冬に歩いて少し温まれる、そういう場所があれば良いのかなと思いました。ありがとうございました。

そして、広さというのはとっても大きな資源で、これはどうしても活かしていかなければならないと思えました。今回施設が二つあるということで、それとの兼ね合いが一番大きな課題ではありますが、上手に広さを活かすような配置というのもコンセプトに入れてもいいぐらいかなと思いました。

先ほどの伊藤委員の発言で、産業展示館のかたちにもやっぱりコンセプトが及ぶといいということだったので、西村委員、ここで今の段階でのお話をお願いします。

【西村委員】

産業展示館の部会の部会長をやっている西村です。二度ほど議論をしたのですが、一つは、産業展示館が老朽化していて建て替えないといけない時に、どういったものをつくろうかという議論があるんですけども、アリーナみたいなものをどうするかとか、コンベンションをどうするかとか、それに産業展示、多様なものがあるんですけども、全部やろうということになると、中々コンセプトがはっきりしないので、もう少しはっきりとした方針を立てていくべきではないかということ議論しました。

基本は、出発点が産業振興ということがあり、先ほどお話がありましたMEXと言う機械工業見本市は、お聞きすると、来年度の出展希望で、ウエイティングリストが既に出来ているということで、その意味では、今のスペースではとても入りきらないという事がありますので、もう少しペースを広げて、尚且つ狭い空間にも対応できるように間仕切りが出来たり、広げたり、そういうことができるようなものにしてはどうかと。

アリーナに関しては、小松に民間でアリーナの計画が構想されているという話がありますので、そちらを見極めながら、同じものを作っても意味がないので、多少差別化することを考えたいと。

コンベンションに関しても、市内にそれなりにあるので、そこでは賄えないような、非常に広いとか、沢山部屋がいる等に特化して特色を出すと、市内の様々なところとの差別化が図れるのではないかと。そういう感じの議論をしています。

その中で出てきたのですが、スポーツ、イベント共通してなんですけれども、人が集中して来て、集中して帰るので、駐車場の混乱というか、混雑というのが非常に大きな課題であると。それは産業展示館も同じであるので、是非それは、おそらく周辺のインフラとも絡むような話もあるので、内部だけで解決できるのかという問題もあります。是非考えていただきたいという事が強く出ていました。そこが一番大きな課題だろうと。

同時に、大きな会合なんかになると、多分県内を越えて人が来られるので、そういう人は車で来るというよりも、公共交通機関で来られるので、その対応が同時に必要になってくるのではないかと。アンケートを取ると、県内の方にお話を聞くと、ここにあるように9割くらいが車でということになりますが、そうではない人を集めるような機会もあるので、その時の対応を考えて欲しいと思います。以上です。

【鐔委員長】

ありがとうございます。駐車場と内部の問題。まだ解決しないといけない問題があります。

【光永企画振興部長】

駐車場につきましては、園内の動線が非常に悪いとか、どこが空いているか分かりにくといった部分もあって、

より混雑に拍車をかけている部分も少なからずあるかと思っています。今回、新しく園内の配置というか、駐車場の配置についても、抜本的に変えていきたいと思っていますので、そういった中で、どのような配置にするのか、配置の仕方、それから園内の動線の動かし方でカバーできる部分もあると思いますし、あと台数をどうするのかという部分もあると思います。同規模の県とか、同じくらいの広さの公園の駐車場の規模はどうなっているかなど、そういったものを勘案しつつ、西部緑地公園でどれくらいの規模のイベントが行われるのかなど、そういった将来需要も鑑みつつ、必要な台数がいくらぐらいなのか。それを上手く配置することによって、大規模なイベントがあった時に、皆さん、集中して帰ってしまうということはあると思うので、混雑してしまうということを全く避けるということは恐らく不可能だと思いますが、極力混雑しないよう園内に留まっていただけ工夫など凝らして、様々なニーズに応えていけるよう工夫していきたいと思っています。

【鏝委員長】

はい、町田委員。

【町田委員】

ちょっと1点だけ、自転車のことについて、多分、駐車場が外周道路みたいなものを設置して、分かり易く配置されていくのだと思いますが、駐輪場という要は移動の手段としての自転車というのも意識して貰いたいという気持ちがあります。

今回の整備イメージの11頁にスケートパークというものが書かれていますが、新しい公園の施設というのと、最近いつもこのスケートボードに対する対応みたいなことが出てきます、東京オリパラの話もあり。何となくスケートパークだけの話ではなくもっとこうホイール系のスポーツみたいなものと自転車という話だと思います。それから、先ほどお話に出ましたけれども交通公園、全国的に二極化していて、廃れていく交通公園と、ずっと人気がある交通公園と、潰す時にまた交通公園みたいなものをつくるというところもあります。自転車屋さんが入り、交通公園に民活を導入しているところもあります。アクティビティとしての施設と移動の手段、そして、もう一つ言うと自転車政策って広域行政に中々使われませんが、例えば、地元の金沢市さんなんかの自転車行政は今どうなっているのか。いわゆるコミュニティーサイクルってよくあるじゃないですか。スポーツサイクルみたいなものもありますし、そういうところのものと一緒にまとめて特徴を出せるコンテンツになるという気はしています。そういうことも一度ご検討いただきたいと思っています。

【鏝委員長】

もっと上手に組み合わせるという事ですね。ありがとうございます。長谷川委員のご意見はどうでしょうか。

【長谷川委員】

この資料とアンケートを非常に興味深く拝見しました。アンケートの方で、天候に左右されず一年を通して楽しめる工夫というのが非常に高く一位になっていて、私自身が子供を持った25年前の時から天候が悪いと遊びに行く場所がなくなるという声は、ずっと聞かれています。お隣の福井県には、エンゼルランドという大型の遊べる施設があって、富山県には太閤山ランドがあって、石川県にはどこにも大型で遊べる場所がないという声を聞いたまま20数年経ってきたという感じです。金沢市にあめるんパークというのが出来て、非常に人気が高く、受付後すぐいっぱいになったりですとか、非常に人気のある施設になっています。

一方で、子供を二人連れていくと年齢によって遊べる場所が限られているので、子供を二人とも満足させる事ができないという課題や、本当に限られた中で親が行く場所を求めて彷徨っているみたいな課題が、特に石川県にはあると感じています。そういう意味では、ここの天候に左右されず一年を通して楽しめる工夫や、4位に入っている子育て世代が楽しめる工夫という声に是非応えて欲しいと感じています。

特に、今の雪の降る時期に行く場所が困るという点で、この12頁にありますような北海道の昭和公園みたいに起伏があってここでそり遊びが出来るとか、こういった仕掛けというか、配置というか、仕組みというか、こういうものがあると石川県らしさというか、雪を活かしたような施設が実現していくのではないかと感じています。この下に屋内施設のようなものが可能であれば、人気を博すようなことになっていくのではないかと、個人的には非常に期待しています。本当に20年後、30年後を見据えた公園になると思いますので、子供達にとって記憶に残るような公園を整備して欲しいと感じています。以上です。

【鏝委員長】

ありがとうございました。浦橋委員、ここに施設の事例が沢山ありますけれども、如何でしょうか。

【浦橋委員】

アンケートなど興味深く拝見させて頂いて貰いつつ、今回の資料に関しても、様々な意見を織り込んで、基本的には良いかなと思いました。そんな中で少し感じたのは、公園の特徴として、様々なスポーツ施設が内包されているというところがあると思いますが、私の周辺の石川県出身の方に聞くと、小学校、中学校とか彼等の青春の一ページに必ずこの公園が登場して、県大会行ったとかそういう思い出話をされるんですけど、運動施設を内包した公園として、やはり石川県の人が、アスリートとして高みを目指す一つの拠点になったら良いのかなと、もっと言うと北陸の中ですね。そうなった時に、例えば、色々なアーバンスポーツですとか、ニュースポーツの機能を盛り込んでいただくかもしれないですけども、「ちょっと世界と繋がっている」みたいな少し目標を掲げてみてはどうかということで、例えば、世界大会を誘致するみたい時に、色々な大会誘致のための条件があったりした時に、わりかし附帯設備が結構重要になってくる中で、もう一つ産業展示館みたいな多目的に使えるような施設があったりするので、世界大会を誘致みたいなかたちで公園の開発を考えると、地域の子供達がちょっとキラキラするのかなと思いました。

それから展示施設、コンベンションセンターみたいな目線で言うと、これも世界を意識した目線で少し考えるとすると、やっぱりビジネスマッチングとか、展示会やイベントを行なって、そこで人と人が出会って、仕事が生まれるみたいなストーリーが最終目的だとして、例えば、wi-fi 設備もそうですが、配信設備みたいなものも拡充されて、世界のグローバルカンファレンスとか、そういったものも見据えて設備を整えていくとか、ランドスケープというか、インフラだけの建築だけではなくて、そういうデジタル面での機能強化、設備面での機能強化というのものもあるかなと思いました。

スポーツの話に戻ると、先ほどトレーニングセンターみたいなお話がありましたけれども、日常的にこういった運動公園を利用するとなると、明日の自分より今日の自分が成長することを実感するみたいなことがよく言われますが、例えばランニングコースとかを考えた時に、サイン計画をしっかりたて、あと何 km とか、グラフィックのデザインを含めてランニングコースの情報の表示方法を工夫したり、アプリと連携して昨日の自分と競争できるようにするですとか、色々なやり方を通して、アスリート、スポーツをやる人間として成長を実感できるような、そういうものをハードでもソフトでも色々な解決方法があるので、例えばコンセプトのところスポー

ツ目線で、アスリートとしての成長みたいなものとか、世界と繋がる「ここから世界へ」旅立つみたいなストーリーを感じさせるようなワーディングがあると、少しワクワクするなと思いました。もしかしたらプロモーション的な話がかもしませんが、そんな感想を持ちました。以上です。

【鐙委員長】

ありがとうございました。ちょうどコンセプトに触れていただいたので、ここからそういった話題に入りたいと思います。15頁の議論に入っていければと思います。前半の部分については、色々な意見をいただきましたので、次回委員会に反映していただければと思います。

これからは15頁のコンセプトの方向性というところで、今基本的な考え方を4つ、そして、これに対応する下の大きな3つの視点についてご意見いただきたいと思います。

浦橋委員からは、デジタルの視点とスポーツの視点をもう少し明確にした方が良いのではないかというご意見をいただきましたが、他の皆様は如何でしょうか。

【高山委員】

5月21日の車の出入りと渋滞長の調査があるので、そこを見ながらどのくらいの駐車場の規模が必要になるか考えていました。入ってきたのは6600台くらい、臨時駐車場、多目的広場を開放すれば、大体3500台くらいのスペースがあるということですから、約2回転弱くらいになります。多目的広場を使わない場合、駐車場の規模は2700台くらいですかね。そうすると大体3回転までいかないけれど、大体2.5回転くらいということです。

出入りの交通の差を見ると600台くらい出てきていません。調査した10時間の中で見ると、どちらかというと、まだ中に残っているとの方がいいんですが、渋滞できっと18時までには出られなかった台数だと思っています。これをどう考えるかですが、本当は、駐車場はあまり広くない方が公園或いは色々な施設からすると望ましいんですが、これまでのイベントでどれくらいの車が来るとか、駐車台数があるかを見ると、今くらいの規模感が必要だと思います。ただし、多目的広場をフレキシブルに駐車場に利用したり、大規模じゃない時は他の利用が出来るようなフレキシブルに利用できる工夫が私は一番重要な点だと思います。先ほどの産業展示館に代わるようなものも、色々なかたちで使えるよう間仕切りを導入するという話もありましたけれども、色々な施設にはそういった工夫が大事なかなと思いました。以上です。

【鐙委員長】

ありがとうございます。コンセプトで言えば、憩いとかスポーツを磨いていく中で相互の関係性が侵されない程度に、実際の使用としてそういった利用が出来れば良いということですよ。

【高山委員】

そうです。要は一つの空間を、賑わい交流空間にも活用できたり、安らぎ憩いの空間に使えたりと。

それから、先ほどあった公園全体の今は統一感がないようなかたちと結構ご意見がありましたけれども、これはつくった時の基本コンセプトとか、増設でつくってきたから仕方ないことだと思いますが、今後リニューアルする時はしっかりと考えることができるはずですから、そこは今、コンセプトの方向性ということで一生懸命議論していますが、もう少し絞り込んだかたちがいいかなと思っています。

【鏝委員長】

もう少し詳しく書いても良いのではないかとのことです。

【高山委員】

はい。

【町田委員】

15頁のコンセプトの方向性のところですが、基本的に、これで大きい項目は書かれていると思っていますが、一番右側の賑わい交流空間のところの一番上に飲食・物販というものが出てきますが、これは、自分が国交相時代に Park-PFI という制度を作り、全国皆こういう感じで行われていますが、これは公園が備えるべき利便性というようなことで、本来のコンセプトの一番上に書くかという1番目ではない気がします。これに引きずられていくと、民間の方々に協力して貰うということになると床が必要になり、公園のデザインビルドまで民間がやることになると、デザインもどこまで入ってくるかということになるので、やはり4つ並べるのであれば、飲食・物販が一番下でも良いと考えます。

それで18頁に、来年春を目途にと書いてありますが、県として、この全体計画をしっかりと作って貰いたいと思います。計画をきちっと作り、民間を導入するにしても、ここでこういうことをやって貰うということ、きちっと書いていく。好き勝手やってくださいという例もありますが、この公園って何だったのかなということにもなり兼ねないので、計画を県がしっかりと作って貰うことを希望したいと思います。

【光永企画振興部長】

ありがとうございます。計画につきましては、県としてきちんと作っていきたいと思っていますので、委員会のご意見を伺った上で、民間活力の導入可能性調査もやりますけれども、それも踏まえた上で、来年度末に最終取りまとめを行うこととしています。県としては、そこできちんとこうした公園を作っていききたいというコンセプトを取り纏めていききたいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

【鏝委員長】

長い時間となりますが、よろしくお願ひします。

【桂田委員】

15頁のところ、言葉の整理ですが、基本的な考え方というところで、インクルーシブとか、いつでも訪れたいというコンセプトワード、世代を超えてという言葉も入っていますが、それとスポーツ・イベント拠点としての機能向上とか民間との協創空間とか、これらはどちらかという手法の話だと思っていて、コンセプトワーディングの中に手法が混ざっているようにお見受けします。基本的な考え方というのは、公園という考え方を大切にするとか、あとインクルーシブとか、世代を超えとか、憩いの場とか、こういったコンセプトワードを入れた方がいいのではないかと考えていて、民間との協創空間とか、機能向上とかは手法の話なので、ここの基本的な考え方の中には入れず、民間との協創空間は皆さんで議論すれば良いと思いますので、ここは整理いただきたいと思いました。それでいくと、基本的な考え方は抽象的な単語でも構わないので、皆様の

夢を詰めれば良いと思います。浦橋委員にお願いした方が良いのかもしれませんが、私は下手な単語を言うてしまうのですが、高山委員がおっしゃっていました30年後、50年後に向けて徐々に成長していくみたいな、成長性とか、可変性とか、2050年を見据えてとかいう単語が良いように思いますし、これは、他の大きな公園の委員会に出た時の受け売りですが、その県の委員会の単語を流用するとウェルビーイングとか、サードプレイスとか、こういう事を言っていたりします。アイデアないのが分かっていますが、そういう基本的な考え方と手法は整理いただけたらと思います。

あと細かいところで、コンセプト実現のところで単語を一つもし変えていただけたら嬉しいのが、誰でも楽しめるインクルーシブな遊具とあるんですけども、インクルーシブは遊具に以外にも、ここに来るアクセスの部分とか、公園の中で過ごす、例えば女性用トイレを増やすとか、バリアフリーにして障がいのある方々や色々な方が楽しめるような工夫をしていただくとか、色々あると思うのでここは「インクルーシブな空間」ぐらいでも良いのではないかと思います。色々と申し上げましたが、よろしくお願いします。

【鏑委員長】

はい、ありがとうございます。青木委員。

【青木委員】

私も今、桂田委員が言われたように、基本的な考え方とその実現に向けた視点というところで、やはり棲み分けが必要だと思いました。浦橋委員から、デジタルをどう利用するかというお話をいただいた時に、単に自分のデータとしてのデジタルというものと、それこそアバターとして、サクラダファミリアの頂上に行くとか、それは大袈裟かもしれませんがガウディーの公園を走っているとか、アバターとして自分がこういう空間にいるっていう、そういうデジタルもここには取り込むべきだろうという思いをもって見ていましたが、このコンセプトの実現に向けた視点の中に、そういったデジタルの視点の言葉が入っておらず、この基本的な考え方をこなすために下の視点があり、ここにやはりデジタルという言葉は、これからの時代に必要なだろうと、色々な意味でのアバターの例のような視覚的な意味と、自分のデータ分析という部分のそういうデータという言葉が必要なんだろうなと思いました。

それから、こことはズレるかもしれませんが、私は野球場の部会長を仰せつかっておりまして、その時に委員の方から必ずこの場で発言して欲しいと言われたことがあり、それは障がいを持つ方々の駐車場の問題です。単に、施設の近くに駐車場を設けましたということだけではなく、乗り降りの問題があります。そこに至るための案内の問題、先ほど出ましたが動線をどう分かりやすくするか、それこそユニバーサルデザインの問題なのだろうと思います。この駐車場の問題というのは、障がいを持つ方々にも優しいようなかたちで準備を進めて欲しいと部会内で意見がありましたので、この場で一言お伝えさせさせていただきました。ありがとうございました。

【鏑委員長】

色々のご意見あるようなのですが、ここでお時間ということで議論を中断させていただきます。事務局は、本日ご意見いただきましたことを取り纏めて、次回の資料に反映させていただければと思います。それでは議事をお返し致します。

3. 閉会